

以下は、琉球の金属文化を研究する上で参考になる文献です。その他首里城公園から出ている刊行物などもチェックして、学びを深めてください。

<参考文献>

- 「沖縄県金工品関係資料調査」(沖縄県 2003-2007)によって、古琉球から近世期における、鉄製品を除くある程度の基礎資料(銅鏡、甲冑、刀剣、飾金具、仏具、供養具、装身具、酒器など)が確認され、同時期に展示会や講演会など様々な活動が展開している(1)。金工品の銅鏡、甲冑、刀剣、飾金具、仏具の分野は、日本美術の中における沖縄金属文化の特徴が示され、供養具、装身具、酒器、東道盆の資料に関しては、琉球と東アジア(中国)との交流関連を示す資料が多い事が確認されている『沖縄の金工品関係資料調査報告書』2008
- 久保智康「故宮博物院蔵の金工について」沖縄県立博物館・美術館編『中国・北京故宮博物院秘蔵 甦る琉球王国の輝き』沖縄県立博物館・美術館、2008)
- 『日本の美術 533 琉球の金工』ぎょうせい、2010。久保智康編 2010『アジア遊学 134 東アジアをめぐる金属工芸』勉誠出版
- 上里隆史「文献資料からみた古琉球の金工品—武器・武具の分析を中心に—」『アジア遊学 134 東アジアをめぐる金属工芸』勉誠出版、2010
- 栗国恭子「近代沖縄の金属文化—失われつつある技術と向き合う思考—」(『沖縄文化』2010) ←沖縄の金属研究の流れについて、錫文化の情報が入っている。
- 栗国恭子「沖縄の金属文化のあり方—鉄・金・銀・銅・錫—」2008)
- 朝岡康二「宮古・八重山の『鍛冶例帳』からみる材料鉄と鉄器加工技術」『雑器・あきない・暮らし—民俗技術と記憶の周辺—』慶友社、2011
- 『沖縄県史 図説編 前近代』沖縄県教育委員会、2019